

第2回 長町・歩いて楽しい街並みづくり検討会 議事概要

- 1 日 時 令和6年10月17日(木) 9時30分～11時
- 2 会 場 仙台市役所本庁舎8階 第四委員会室
- 3 出席者
委員:阿部博委員、遠藤源太郎委員、加藤隆委員、小島博仁委員、
丸山佳宏氏(小林利一委員の代理)、松木晃一氏(柴山隆委員の代理)、
鈴木有希子委員、泊尚志委員、富田勲委員、不破正仁委員、堀内祥弘委員、
三浦孝行委員、水谷哲也委員
※柿沼敏万委員欠席、脇田淳委員欠席
オブザーバー:石川勝浩氏
コーディネーター:氏家滉一氏
太白区(事務局):太白区長、まちづくり推進部長、長町地域活性化推進室長、
長町地域活性化推進室 藤森主査、船水主査、木皿主任
- 4 次第・資料
 - 1 開 会
 - 2 挨拶
・仙台市太白区長 檜森 亮
 - 3 議 事
・R6 社会実験(案)の概要等について
規約【資料1】(配付のみ)
取組みの位置付け【資料2】
基本計画の考え方(案)【資料3】
各ワーキンググループでの議論の経過【資料4】
R6 社会実験(案)の概要【資料5】
 - 4 閉 会

1 開会

2 挨拶

<太白区長より挨拶>

3 議 事

<事務局より資料1, 2, 3, 4に基づき説明>

不破座長:

- 資料4の各ワーキンググループの議論の経過について、ワーキンググループの座長から補足などあるか。

泊委員(交通WG座長):

- 資料4の5～6ページの案は、幅広い可能性について交通ワーキンググループの委員で議論して検討したもの。

堀内委員(利活用WG座長):

- ゾーン分けしたことによって、イメージが付きやすくなったと考えている。

不破座長:

- 委員の皆様から意見・質問はあるか。

水谷委員：

- 第3回交通ワーキンググループ(書面開催)の内容について教えてほしい。

事務局(室長)：

- 後程ご説明する資料5に反映させている。

泊委員：

- 公共交通をどう位置付けるかの議論は、社会実験ですぐに反映できることと、できないことがある。長い目で見たときに、どういう交通のあり方が必要かの議論は必ず残る。

不破座長：

- 今回社会実験が行われて、課題が出てきて、次の社会実験や整備に移っていく流れだと思うが、安全性の観点とか周辺への影響について交通ワーキンググループで議論はあったか。危険だから止めるべきという意見は出なかったか。

泊座長：

- 各委員の立場から、できること、できないことを活発に議論して整理した。
- 全て解決したわけではないが、社会実験を実施していくうえで必要な項目出しはできたと思う。

不破座長：

- 日々子どもの交通事故のニュース等があるので、安全・安心の観点については、我々全員が共通認識としてもっておくべき。
- 資料4の9ページ以降にイメージ案があるが、私は歩道を活用しただけで人が集まるワクワクする街になるのかという懸念がある。利活用ワーキンググループでどのような意見が出ているのか教えてほしい。

小島委員：

- まちづくりはコンテンツ作りだと思っていて、特徴のあるお店があって、行ってみるとベンチがあって、居心地が良いから滞在するという物語性がないと賑わいは生まれない。
- ワーキンググループで全て整理できるのではなく、地域の商店街がどうチャレンジしていくのかというのが必要だと思っている。

加藤委員：

- 資料4のゾーン分けのイメージを持つことにより、商店街としてこれからのお店の魅力づくりに活かしていくという点では、非常に良いヒントをもらったと認識している。

不破座長：

- ゾーン分けでは、あまり具体的なイメージがしづらいので、その辺りを整理してほしい。
- 資料4の9ページ以降のイメージ案について、長町駅前のイラストが、歩道に面している側の土地利用が描かれていないので、分かるように提示してほしい。

事務局(室長)：

- このゾーンについては、東側の長町駅前西口広場も入れたいという意図もあってこのようなイメージにしたが、ご意見も踏まえ検討する。

泊委員：

- 利活用ワーキンググループのなかで、交通ワーキンググループで議論しなければいけない課題は上がってきているか。ゾーンによって交通の方でも対応することがあるのか確認したい。

小島委員：

- そこまで議論できていないというのが正直なところ。
- 昨年度のワークショップで出ているのは、22mの道路幅員があると対面の商店に簡単に行けないので、商店街として東西に行き来する自由度を高めるためにスクランブル交差点などを検討したいという意見は出ている。

遠藤委員：

- ゾーン分けは、事務局の方で議論のたたき台として3つの既存の商店街の区分を参考に作ったもの。今後、更に議論していきたいと思っている。

丸山委員代理：

- 道路を使う場合は土日に限定しているのか。

不破座長：

- 社会実験の日程は決まっているか。

事務局（室長）：

- 資料5で説明する予定だが、11月29日から12月1日の3日間で、金・土・日を予定している。

不破座長：

- 社会実験を通して安全性を確認しながら、道路の使い方を考えるということ。

鈴木委員：

- ゾーン分けについて、長町に住む皆さんとしてはじっくりくるものでイメージを持ちやすかった。
- それを対外的にどのように説明するかについては、工夫が必要だと思う。

不破座長：

- この歩いて楽しい街並みづくりは、誰のためにやっているものなのか。
- 長町について、客観的に読み解いて、整理しておく必要があると思う。今のゾーンがどのようなものか理解していないのに、間違っただけの方向に導こうとしているかもしれない。皆さんがゾーンの特性を簡単に完結に分かりやすく、漏れのないように説明できるようにしてほしい。

氏家氏：

- 昨年度のワークショップで、誰のために街並みを良くしたいのかということ、地域の方々に繰り返し問いかけてきた。皆さんは、地元の人のためだと言う。地元の人が生きる場所には魅力があり、どんどん人が吸い付けられてくるので、長町が盛り上がると思っている。

不破座長：

- 本当にそれで良いのか吟味してほしい。そこに暮らしている人しか分からないような説明の仕方では魅力は伝わらない。分からない街には人は来ない。

氏家氏：

- 地元という言い方が誤解を招いた。旧国道4号を、長町南、あすと長町、長町商店街のエリアの人たちを吸引するような道にしたいという意味。商店街の沿道の人だけ盛り上がりさえ良いという意味ではない。

鈴木委員：

- 長町の人々は長町が好きで、400年の長い歴史にとっても誇りを持っている。人々が昔から暮らしている街なので、定禅寺通などとは違う。

不破座長：

- 何が違うのか。

鈴木委員：

- 定禅寺通は行く場所で、長町は暮らす場所。

不破座長：

- 長町は商業を営んでいた場所だと思う。
- マンションが建ち、駐車場が出来て、今の長町は住むだけの場所となっている。こういった土地利用が本当に400年前の長町の歴史を継承しているのか疑問。

小島委員：

- 座長の意見については、利活用ワーキンググループや地域主催のワークショップの中でも議論していきたいと思う。
- ただし、基本は地域住民の方々が共感を持てるビジョンをどうつくっていくかということだと思う。

不破座長：

- それについては同意見。ただ、地域の住民とはどういう方なのかは把握しないといけない。歴史や伝統、暮らしという言葉でごまかさないできちんと考えてほしいという思い。
- ワーキンググループでの議論がまだ足りていない部分があるかと思い、ぜひ宿題として持ち帰っていただきたい。

<事務局より資料5に基づき説明>

不破座長：

- 委員の皆様から意見・質問はあるか。

三浦委員：

- 長町駅前交差点の南進方向の左折車線、広瀬橋交差点の北進方向の左折車線について、バスが入りづらい、出づらいという問題があるので、バス停あたりから車線規制を解除するべきではないかと思う。

鈴木委員：

- 長町駅前の歩道は十分にスペースがあるので、車線規制を解除しても良いと思う。

事務局（室長）：

- いただいた意見を踏まえて、個別に調整させてほしい。

不破座長：

- 長町駅前は滞留するようなものを作らなくて、人を流すような仕掛けがあると良い。
- 広瀬橋交差点の方はどうか。

氏家氏：

- 利活用する場所を検討しているが、駐車場があるので車道が使える場所とは考えていない。

不破座長：

- 社会実験として、どこまで難しいかを知ってみるのもありだと思っている。

三浦委員：

- やって見ないと分からない部分もあるので、社会実験は非常に重要だと認識している。

- 例えば、途中で塾があって路上駐車が多い。路上駐車があると1車線潰れていることになる。

不破座長：

- 三浦委員や鈴木委員の意見に賛成だが、ひとまずは事務局の提案通りにやって、検証してみるという見方もあると思う。

阿部委員：

- 県警としては、この道路だけでなく、エリア一体の交通の総量抑制を目指したいと考えている。
- 緊急車両の出入りも大丈夫なのかなという疑問もある。

渡辺委員代理：

- 長町駅前歩道は歩道が広いと言っても、歩道内に自転車が通行できる部分が指定されている。将来的な自転車通行を見据えて検討しなければいけない部分だと思う。
- アンケート調査をすると事務局から説明があったが、自転車の方の通行目的とか立ち寄った場所なども深く掘り下げてアンケートをとってほしい。

遠藤委員：

- 今回は3日間という期間で、全線2車線にしたときにどういう影響があるのかを検証したいと考えている。安全面については、早急に県警・南署と調整していきたい。

丸山委員代理：

- 社会実験は交通規制だけで、イベント等はないのか。

事務局（室長）：

- 検討中である。

小島委員：

- 社会実験は将来こういうことをやりたいという仮説があってやるべき。例えば、長町駅前の自転車をどうしたいのかということ。もう少し整理した方が良いのでは。

水谷委員：

- 青葉通の社会実験も渋滞が発生して、どう解決するのかというところがなかなかできていない。
- 交通ネットワークの話をする、宮沢橋の開通とか、郡山折立線の整備も控えていて、交通状況が変わると思う。交通シミュレーションなどを通して交通影響を考えていく必要がある。

泊委員：

- 交通ワーキンググループで調整していた部分もあるので、いただいた意見を踏まえてより良いものにしていきたい。
- 交通量の調整に係る道路の部分と、空間利活用に係る部分の発送は切り分けながら、調整して同じ方向に進めていければと思う。
- 資料5の3ページに回遊促進とあるが、具体的な案はあるのか。長町駅前西口広場は、あまり活用しなくても良いと思っていて、社会実験やこの検討会の情報発信を伝える場でも良いと思う。

事務局（室長）：

- 回遊促進については、スタンプラリー等を考えている。長町駅前西口広場の活用については、いただいた意見を踏まえて検討していきたい。
- 車線規制について、様々意見をいただいたが、事務局としては本日の案で進めていきたいと考えている。

不破座長：

- 1回目の社会実験なので、トライするということが大事だと思っている。座長として、ひとまずこの

たたき台で試してみるべきと判断する。

4 閉 会

(11 時終了)